

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな児童の育成を図る。そこで、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

○よく考え進んで行動する子 ○思いやりのある子 ○からだをきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎明るく楽しく安全な学校 ○児童一人一人の人権を尊重し大切に作る学校 ○授業改善、研究、研修に力を入れる学校 ○保護者や地域から信頼され、協力、支援される学校
○児童・生徒像	○よく考え進んで行動する子…すすんで学習し、学び方や考え方を身につけ自らの力で課題を解決する児童 ○思いやりのある子…時と場に応じた挨拶や返事ができ、礼儀正しく明るく思いやりの心を持ち、お互いの気持ちを考えながら共に励まし合い助け合う児童 ○体をきたえる子…進んで運動し健康に気を付けながら、たくましく活力のある生活を営む児童
○教師像	○児童の健全育成に全力を注ぎ、児童に敬愛され、保護者・地域に信頼される教師 ○授業改善に努め、新しいことにチャレンジし、充実した授業を展開する教師 ○児童理解に努め、児童と正面から向き合える教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

《学校の現状》

- 昨年5月に新型コロナウイルスが第5類に移行して以降、数年ぶりにコロナ禍前に近い教育活動を実施することができるようになった。年間を通してあいさつ運動を実施して、校内外で挨拶や会釈などがしっかりできる児童が多くなり、挨拶の定着が見られるようになった。特に最上級生である6年生が落ち着いて学校生活を送れていることが、様々な学校生活の場面で下級生によい影響を与え、学校全体が落ち着いていることにつながっていると考える。反面、学習用具の忘れや宿題忘れをする児童が固定化されている。学習に向けた準備が不十分である児童ほど下位の児童が多いのが現状である。さらに保護者の協力や理解を得るのが難しい家庭が多い側面もあるが、担任からの指導の強化や保護者との連携をより図っていく必要がある。
- 教職員は教材研究・授業や行事の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに問題解決型学習を中心に児童一人一人に応じた指導を心がけている。30名の教員のうち、経験が自校のみの教員も三分の一いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。
- 区学力調査では、通過率が4月（国語86.9%、算数88.5%）9月（国語93.9%、算数92.2%）1月（国語92.5%、算数93.4%）であった。

《前年度の成果と課題》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着

令和4年度まで「平野スキルアップタイム」を放課後に位置付けていたが、教員の会議や、研修等のために実施できない日が多かったため、昨年度から昼休みと5校時の間の15分間を活用するように変更し、日々継続的に基礎的・基本的な学習内容の定着を図れるようにした。また、学習内容の理解に時間がかかる3、4年児童にはそだち指導を、区の学力調査で目標値に達しない児童に対しては夏休み、冬休み、春休みに補充教室を実施してきた。その結果通過率は区の平均を上回り、中位、下位層の基礎基本の定着度の底上げができてきた。今年度も理解できない内容をそのままにせず、放課後補習等を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。若手教員が多いので授業力・指導力の向上が必要である。教科指導専門員による指導を真摯

に受け止め、授業改善に努めさせる。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。引き続き、保護者に家庭学習の習慣化を啓発し、AIドリルを使った宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。また、タブレット端末を学びの道具として、より個に応じた主体的な学習に取り組めるよう引き続き有効活用していくとともに、情報モラルについても併せて指導をしていく。

○心の教育の充実

年間を通して挨拶について指導し、児童があいさつ運動に参加させてきた結果、朝の挨拶や廊下等での挨拶はかなりできるようになってきた。開かれた学校運営協議委員の方たちによる授業診断での評価でも挨拶についての評価が高い。保護者の学校評価では、「子供は明るく元気に学校生活を送っている」の肯定的評価が94.4%であった。

年3回調査しているいじめアンケートでは「いやなことを言われる」「無視される」などの記述も見られる。いじめ案件のうち重大案件はないものの、決して0案件ではない。早期発見・早期解決に努めているが、油断せず見守るとともに道徳の授業を充実させ、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を重点にして指導していく。

○教員の働き方改革

昨年度より足立区の施策として、月に1日の「あだちからの日」が新設された。従来の本校の取組であった毎週水曜日の「定時退勤日」の設定とともに一定の意識改革と成果は見られたものの、数名の月60時間の超過勤務や月45時間以上の超過勤務の教員が見られる。令和6年度はさらなる働き方改革として、会議の一層の精選や職員夕会等の在り方、保護者会や個人面談等の実施方法について工夫し、心身ともにゆとりある働き方の推進を図っていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな人間性の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
児童一人一人の基礎学力の定着、 思考力・表現力の向上	年度当初－80% 1月－90% 2月現学年－75%		自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	スキルアップ タイム	全児童 国語 算数	毎日5校 時始業 前15分 (B時 程・土曜 授業日 等除く)	担任が、AIドリル、次への ステップ、東京ベーシックド リル、漢字・計算プリント等 を活用して、漢字・計算の基 礎を身に付けさせ、学力を定 着させ、弱点を克服する。	全校で共通し たワークテ ストを活用し成 績ファイルで 確認する	国語と算数のワ ークテストの平 均点85点以上 2月の現学年調 査は目標値の通 過率75%	自己評価の際に記入		
2 継続	放課後補充 教室	全学年 目標値に 達してい ない児童 国語 算数	毎日 (月別 に学年 を指定)	専科、学習支援ボランティア が漢字・計算プリント等を活 用して、つまづきをさかのぼ り、少人数指導を行う。 反復して学習させることで 基礎学力の定着を図る。	学力調査の再 調査(全児童) 9月・1月実 施・現学年調 査2月実施	学力調査の再調 査通過率90% 2月現学年調 査通過率75%			
3 継続	長期休業期 間中の補充 教室 (サマー スクール)	全学年 国語 算数	夏休み 10日	全教員と学習支援ボランテ ィアがAIドリル、漢字・計 算プリント、学力調査過去問 題・類似問題、東京ベーシッ クドリル等を活用して、学力 調査で目標値に達しなかつ た児童や担任が補充させた い児童を中心に問題を解き 直したり、補充問題に組み 組んだりすることで、基礎学 力の定着を図る。	学力調査の再 調査(全児童 対象)9月・1 月実施	学力調査の再調 査(9月・1月) 通過率90%			

4 継続	読書活動の 推進	全児童 国語	読書記録は通 年で取 り組む 毎週水 曜日の 朝読書 読書旬 間-6月 読書月 間-11月	生活の中で読書の時間を 確保し、読書に親しみ、考 える力や想像力を育む。 ・読書記録への記入 ・図書委員会による本の紹介 ・図書ボランティアや教師に よる読み聞かせ ・読書旬間-低学年 20 冊、 高学年 500 ページ ・読書月間-低学年 40 冊、 高学年 1000 ページ ・年間読書冊数の目標を各学 年ごとに設定	読書記録で確 認する。 読書旬間、読 書月間の目標 達成者は校長 室に報告に来 る。	読書旬間 (6 月) 読書月間 (10 月) の目標ページ 数・目標冊数に ついて 8 割達成			
5 継続	俳句コンク ール	全児童 国語	9 月	身近な生活の中で感じたこ とや自然現象などを、短い言 葉で表現することにより、物 事を見つめる目を養い、豊かな感性を養う。 ・俳句コンクール (9 月) 校 長室前に投句箱を設置し 年間を通して校長俳句会 を実施。 ・外部の俳句大会にも応募	各学級の廊下 で俳句作品展 優秀作品の廊 下掲示および 学校だよりで 紹介する。	5・7・5 のリズム で季語を用いた俳句を全員が 作る。			
6 継続	百人一首旬 間	全児童 国語	7 月 12 月	小倉百人一首、五色百人一首 を使用し日本の伝統文化で ある百人一首に親しみ、古語 の響きの良さに気付かせると ともに、学年や学級で対戦 し競わせる機会を設ける。	百人一首暗唱 カード	各学年で 20 首 ずつ覚える。			
7 継続	授業力・指 導力の向上	全教科 全教職員	年間を 通じて	・年間 8 回の小中連携 ・全教職員による教科別分 科会と授業研究を実施 ・長期休業中の研修会へ全 教員が 1 回以上参加 ・ICTを活用した授業週案 簿に明記する。	研究会参加。 区や都の分掌 に関わる命令 研修以外に研 修へ参加。マ イキャリアノ ートで確認	全体会 2 回、 授業研究 6 回 一人 4 回以上研 修会に参加。 担任全員が週 3 日以上 ICT を 活用。			

8 継続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員 全児童	年間を通じて	足立スタンダードに基づいた授業を展開する。 ・系統立てて学年別にノートを選定し、低学年は、マス黒板を使って指導する。 ・ワークテスト（国・算）を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。	管理職、教科指導専門員による授業観察。 ワークテストの経年比較データの活用。	全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。主要教科の主任を講師に足立スタンダードに基づいた授業展開のポイントについて校内 OJT を前期までに実施			
9 新規	児童の学習に対する満足度調査の実施	全児童	前後期各1回	全児童対象に、授業についての意識調査を実施する。意識調査を受け、教師の授業改善につなげる	第1回7月 第2回2月	授業に対するの楽しさ、理解度意欲、学習規律等について肯定的評価7月80% 2月90%			

重点的な取組事項－2		豊かな人間性の育成						
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度	
様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する		学校評価項目、子供は、明るく元気に学校生活を送っている 90%以上の肯定的評価						
B 目標実現に向けた取組み								
項目	達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題	達成度
縦割り班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班遊び年11回 縦割り班給食年2回 縦割り班集会年2回 		<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回中休みを縦割り班遊びの日に設定し縦割り班遊びを十分とる。 給食部、特別活動部の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。 					

<p>挨拶運動等の推進と校内での名札着用の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている 90% ・名札着用率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝と帰りだけでなく校内での挨拶について強化する。 ・各学級で名札着用の確認をし、月末に着用率を出す。 			
<p>幼稚園、保育園、中学校との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・園児・生徒・教員の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の見学、1年生との交流や保育体験をする。 ・学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。 ・中学校での授業体験と部活動体験をする。 ・長期休業中の補充教室に中学生が〇付けボランティアとして参加する。 ・小学校教員と幼保の教員がお互いの授業や保育の様子を参観しあう機会を設定する。(夏季休業中等を活用) 			
<p>道徳の授業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。 ・いじめ防止を視点とした授業を前期後期で各1回以上行う。 ・年間計画に基づく確実な実施をする。 			

特別支援学級と通常学級の交流	<ul style="list-style-type: none"> 各学校行事で各学年の通常級と一緒に活動する 固定級の担任による特別授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会等の学校行事において通常級と一緒に同じ活動を行う。 9月に固定級担任による特別支援学級児童の特性について通常級の児童へ授業を行い。理解を深める。 			
----------------	---	--	--	--	--

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。	保護者の学校評価10項目において肯定的評価の平均90%	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	保護者の学校評価10項目において肯定的評価の平均90%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校ホームページ・学校説明会・PTA広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。 生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。 			

開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	・活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。 ・土曜事業として、土曜授業での〇付けボランティア、漢字検定、着付け教室、そろばん教室、スポーツ教室等を計画・実施する。 ・農業体験部会で平野農園での作物栽培や稲作体験を計画・実施する。 			
----------------------------	---------	--	--	--	--

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）